



平成 25 年 3 月 22 日

## 日本初「緩和支援医療科」が岡山大学に開設

### <概要>

がん対策推進基本計画ではがんと診断されたときから、緩和医療をおこなうことが定められております。病を持つ患者さんと家族は、診断された時から身体的、社会的、精神的あるいは深いところの痛みを感じています。病を癒すということは単に病気を治療することのみにとどまらず、それをもつ患者さんと家族の全てのいたみのケアを行うことにほかなりません。緩和支援医療科は痛みやつらさの診断、予防、治療を行うことによって、患者さんと家族の生活の質を向上させ治療効果をあげることを目的としています。このようなコンセプトに基づき積極的に患者さんと家族を支援するための「支援」を加えた緩和支援医療科が我が国において初めて開設されます。

からだはこころのいれものです。わたしたちが病をえたときに、つらさを感じるのは体だけではありません、こころもつらさを感じます。また、こころがつらさを感じていれば、そのいれものであるからでも健やかではられません。従来の医学はからだあるいは病気を治療するというところに力点を注ぎできました。しかしながら、医療の目的がわたしたちの「幸せ」であるとするならば、からだもこころも同時に治療すること（全人的ケア）が必要であります。緩和支援医療は診断の時から全人的ケアを行う医療です。

岡山大学では様々な研究に基づいた最先端の医療を皆様に提供しています。これによって多くの方が救われています。しかし岡山大学の提供する医療は、単に病気をなおすことのみにとどまるのではなく、病をもつ患者さんと家族の様々なつらさも同時に治療し生活の質を向上させることを目的としています。緩和支援医療科ではがん治療にあたる専門家のみならず、精神腫瘍科、口腔外科、形成外科、放射線科、麻酔蘇生科等々の専門医師や、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー、臨床心理士、リハビリ、栄養士など多くの分野の専門家が協力して患者さんと家族のための診療を行っています。

病気にともなうからだの痛み、だるさ、しびれ、経済的なこと、仕事のこと、家族のこと、療養場所のことなど様々なつらさや心配をかかえて病気の治療を行うことはたいへんつらいことです。それらを解決して前向きな治療ができ、自分らしい生活ができるようにすることが緩和支援医療科の目的です。最先端の医療と同時に行うことでわたしたちはもっともっとしあわせになることができます。

毎日外来を行いますので主治医にご相談ください。

### <お問い合わせ先>

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科緩和医療学  
教授 松岡順治

Tel : 086-235-6502 ; Fax : 086-235-6502

E-mail : jmatsu@md.okayama-u.ac.jp